

目次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

- ア 定員充足の見込み ……p. 2
- イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要 ……p. 2-3

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

- ア オープンキャンパス ……p. 3-5
- イ 山梨県下高校生への公開授業 ……p. 5
- ウ 出前講義 ……p. 5-6
- エ 山梨県内高等学校と山梨大学との入学試験等に関する
情報交換会 ……p. 6

(2) 人材需要の動向等社会の要請

- ① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要） ……p. 7
- ② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえた
ものであることの客観的な根拠 ……p. 7

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

本学医学部医学科の入学定員 125 人については、下記の理由から入学定員を十分に確保できると考えている。

文部科学省による学校基本調査では、高校卒業者数、大学等進学者数の変化は、表 1-1 及び表 1-2 のとおりとなっており、全国では高校卒業者数は減少しているが、大学等進学者数及び大学等進学率ともに増加している。山梨県では、高校卒業者数及び大学等進学者数は減少しているものの、大学等進学率は全国平均を上回っている。

本学医学部医学科の入学志願状況は、一般選抜は表 2-1、地域枠は表 2-2 のとおりである。

一般選抜、地域枠とも前年度より増加しており、安定して多くの受験者を確保している。

以上のことから、125 人の入学定員の設定は適切であり、今後も学生の確保は問題ないと考える。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

<表 1-1 進路別卒業者数（全国）>

年度	高校卒業者数	大学等進学者数	大学等進学率
H20	1,088,170 人	574,990 人	52.8%
R 1	1,037,284 人	578,341 人	55.8%
R 2	1,012,007 人	580,550 人	57.3%

<表 1-2 進路別卒業者数（山梨県）>

年度	高校卒業者数	大学等進学者数	大学等進学率
H20	8,755 人	5,045 人	57.6%
R 1	7,888 人	4,497 人	57.0%
R 2	7,727 人	4,536 人	58.7%

<表 2-1 山梨大学医学部医学科入学志願状況（一般選抜）>

年度	種別と定員	志願者数	志願倍率	第1段階選抜合格者	受験者数	合格者数	入学者数	定員超過率
H30	一般選抜(90)	1,256	14.0	900	338	104	92	1.02
R 1	一般選抜(90)	1,294	14.4	901	343	110	90	1.00
R 2	一般選抜(90)	1,107	12.3	900	309	108	90	1.00
R 3	一般選抜(90)	1,057	11.7	900	368	106	90	1.00
R 4	一般選抜(90)	1,621	18.0	904	261	106	90	1.00

注) 1. 志願倍率は、小数点第2位を四捨五入。
2. 定員超過率は、小数点第3位を四捨五入。

<表 2-2 山梨大学医学部医学科入学志願状況（地域枠）>

年度	種別と定員	志願者数	志願倍率	第1段階選抜合格者	受験者数	合格者数	入学者数	定員超過率
H30	地域枠(35以内)	95	2.7	53	53	33	33	0.94
R 1	地域枠(35以内)	103	2.9	53	53	35	35	1.00
R 2	地域枠(35以内)	74	2.1	53	53	35	35	1.00
R 3	地域枠(35以内)	68	1.9	53	53	35	35	1.00
R 4	地域枠(35以内)	72	2.1	53	52	35	35	1.00

注) 1. 地域枠は、山梨県内高校出身者を対象とした入学試験。
2. 志願倍率は、小数点第2位を四捨五入。
3. 定員超過率は、小数点第3位を四捨五入。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

次の取り組みを通じ、積極的に学生確保を行っている。

ア オープンキャンパス

進学を希望する高校生とその保護者を対象にオープンキャンパスを開催している。内容は、本学の特色の説明、模擬授業、在学生による学生生活の説明、医師・研究者としての活動など、多岐にわたっている。参加者は、進学希望大学を決める前の高校2年生が中心となっており(表3-1)、参加者の高校所在地は山梨県内が多いが、隣県の長野県や静岡県、関東エリアからの参加者も多く見受けられる。(表3-2)

オープンキャンパスでは、平成30年度から午前と午後の2部制とし、事前申し込み定員を200人から300人に拡大したが、事前申し込みなしに当日直接来場する参加者も多い(表3-3)。

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和2年度～4年度は対面でのオープンキャンパスは行わず、Web配信のみで対応している。

<表 3-1 オープンキャンパス申込者内訳>

単位：人

	高3年	高2年	高1年	既卒者	保護者	その他	計
H27	27	77	22	25	7	3	161
H28	29	74	16	15	14	1	149
H29	37	72	23	10	9	2	153
H30	45	101	73	28	13	2	262
R 1	40	100	64	26	21	4	255

注) H27 から H29 年度は、午後の部の大学説明への参加者のみ集計した。

<表 3-2 オープンキャンパス申込者在籍（出身）高校所在地内訳>

単位：人

	山梨県	長野県	静岡県	東京都	神奈川県	埼玉県	千葉県
H27	63	9	10	46	15	12	5
H28	60	9	8	42	12	9	4
H29	55	4	2	55	15	11	6
H30	110	21	16	64	17	16	4
R 1	110	16	7	60	17	11	8

	栃木県	群馬県	茨城県	新潟県	その他	計
H27	0	0	1	0	4	165
H28	2	5	1	0	5	157
H29	3	2	0	1	3	157
H30	1	0	3	0	10	262
R 1	3	5	5	0	13	255

<表 3-3 オープンキャンパス参加者数>

単位：人

	H27	H28	H29	H30	R 1
申込者	165	157	157	262	255
同伴者	97	89	88	129	131
参加者計	262	246	245	391	386

- 注) 1. 事前参加申込定員は、200 人。
2. 参加者数は、同伴者と当日受付者を含む。

イ 山梨県下高校生への公開授業

「山梨県下高校生への公開授業」は、大学の授業に触れる機会を通して学問の面白さ、様々な教育分野に触れる楽しさ、奥深さを理解してもらい、将来大学で学ぶ動機づけとなることを期待し、ブタの心臓を使用した「心臓病と心臓手術体験」などの医学部医学科に関する授業を、高校生向けに分かり易い内容で行っている。高校生が興味を抱くような講義を多数用意し、毎年7月下旬に約1週間に亘り実施している。(表4)

受講希望者が、募集定員を上回る人気のある講義も多い。

なお、令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、開催を見送った。

<表 4 山梨県下高校生への公開授業参加者数>

単位：人

	H30	R 1	R 2	R 3	R 4
授業数	23	22	—	22	26
募集定員	589	555	—	721	824
参加者数	572	615	—	634	788

- 注)：1. 対象は、医学部医学科の教員による公開授業。
2. 参加者数は、延べ数。

ウ 出前講義

「出前講義」は高大連携の一環としての全学的な事業であり、医学部医学科でも実施している。大学で学ぶ学問、研究の奥深さ、面白さを、出前講義を通じて体験することで、高校生のうちから学問・研究への意欲と興味を抱き、「学ぶ」意義を自ら見出し、大学での学びの動機づけとなることを期待している。

各年度の5月から12月の間、県内を中心とする高校からの求めに応じ、直接教員が出向いて講義を行っている。医学部医学科の実施状況は、表5のとおりである。

<表 5 出前講義実施数>

単位：件

	H30	R 1	R 2	R 3	R 4
実施数	7(1)	13(3)	11(3)	12(3)	9(2)

注) 1. 実施数は、延べ数。

2. () は県外高校の実施数で、内数である。

3. 令和4年度は、9月1日現在。

エ 山梨県内高等学校と山梨大学との入学試験等に関する情報交換会

高等学校進路指導教員への情報発信及び意見交換を目的として、毎年8月に「山梨県内高等学校と山梨大学との入学試験等に関する情報交換会」を実施している。

高等学校進路指導教員に対する貴重なアピールの機会となっており、地域枠への優秀な受験生の推薦依頼も行っている。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、普通科を設置している県内の公立高校17校、私立高校8校が参加し、オンライン(Zoom)で開催した。

また、平成30年度からは、地域枠入試に受験生を推薦している高校長と医学部長、医学部入試委員会委員長等との意見交換会を開催しており、令和4年度には進路指導担当教員の出席も求めている。大学からは医学科の現状や入試に関する説明を行い、高校長から受験生の現状や大学に対する率直な意見が述べられることにより、地域枠入試に関する相互理解を深める機会となっている。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学医学部医学科では、深い人間愛と広い視野を持ち、医の倫理を身に付け、科学的根拠に基づいた医学的知識、技術を備え、地域医療等に貢献できる医療人、研究者の養成を目指している。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

令和2年度の山梨県における人口10万人当たりの医師総数は、全国平均269.2人に対し、259.4人（資料1）と下回っており、平成20年度の211.8人（全国平均224.5人）（資料1）からは増加しているものの、依然医師不足は解消されていない。

山梨県は、県面積の約8割が山間地域という特性があり、地域別の人口10万人当たりの医師総数の内訳は、県都市部の中北地区における322.2人に対し、峡東地区では209.3人、富士・東部地区では168.0人、峡南地区では123.9人と大きな開きがあり、地域差が最大2.6倍と地域偏在が顕著となっている。（資料1）

このような状況により、山梨県から県内医療に従事する医師の養成について強い要望（資料2）があり、今後も医師不足と地域偏在の解消に向け、取り組みを推進していく必要がある。

なお、地域枠入試導入後の卒業生の県内就職率は、一般入試入学者の23.7%に対し、地域枠卒業生の県内就職率は90.5%と高く、地域枠制度は本県の医師確保の手段として大きな成果を上げている。（資料3）

医学部の収容定員変更の趣旨等を記載した書類資料一覧

資料 1 山梨県の医師の状況

資料 2 卒業生就職先内訳

資料 3 令和 3 年度学校基本調査（山梨県抜粋）

資料 4 令和 3 年度学校基本調査（全国抜粋）

資料 5 地域枠に関する山梨県と山梨大学との打ち合わせ要旨(2022/1/6)

山梨県の医師の状況

医師数

(単位：人)

	H20. 12. 31	H30. 12. 31	R2. 12. 31	増 減
山 梨 県	1845	2016	2101	256
中北地区	1257	1407	1481	224
内 峡中	1163	1234	1377	214
内 峡北	94	173	104	10
峡東地区	258	269	271	13
峡南地区	65	60	59	-6
富士・東部地区	265	280	290	25

人口10万人対医師数

(単位：人)

	H20. 12. 31	H30. 12. 31	R2. 12. 31	増 減
全 国	224. 5	258. 8	269. 2	44. 7
山 梨 県	211. 8	246. 8	259. 4	47. 6
中北地区	265. 0	305. 6	322. 2	57. 2
内 峡中	295. 6	337. 0	356. 2	60. 6
内 峡北	116. 4	142. 8	142. 3	25. 9
峡東地区	179. 5	202. 7	209. 3	29. 8
峡南地区	107. 3	120. 9	123. 9	16. 6
富士・東部地区	136. 5	159. 3	168. 0	31. 5

出展：医師・歯科医師・薬剤師調査

卒業生就職先内訳

資料2

卒業年度	地域枠入学者				一般入学者			
	卒業者数 (A)	医師国家試験 不合格者数 (B)	県内就職者数 (C)	県内就職率 (D=C/(A-B))	卒業者数 (E)	医師国家試験 不合格者数 (F)	県内就職者数 (G)	県内就職率 (H=G/(E-F))
平成25年度	24	0	20	83.3%	61	0	24	39.3%
平成26年度	27	0	21	77.8%	95	2	34	36.6%
平成27年度	27	0	24	88.9%	96	5	19	20.9%
平成28年度	36	3	22	66.7%	86	6	21	26.3%
平成29年度	25	2	21	91.3%	85	5	18	22.5%
平成30年度	40	1	39	100.0%	98	7	19	20.9%
平成31・令和元年度	35	1	34	100.0%	69	2	8	11.9%
令和2年度	36	0	36	100.0%	100	12	14	15.9%
令和3年度	32	2	30	100.0%	82	3	16	20.3%
計	282	9	247	90.5%	772	42	173	23.7%

注：就職者数は、卒業時の就職者である。

令和3年度
教育統計調査結果報告

学 校 基 本 調 査

山 梨 県

42 状況別卒業生数

(単位:人)

区 分		計			公 立			私 立			
		計	男	女	計	男	女	計	男	女	
A 大学等 進学者	大学(学部)	4,137	2,394	1,743	2,829	1,525	1,304	1,308	869	439	
	短期大学(本科)	374	44	330	283	30	253	91	14	77	
	大学・短期大学の通信教育部	3	1	2	1	—	1	2	1	1	
	大学・短期大学の別科	1	—	1	1	—	1	—	—	—	
	高等学校専攻科	21	21	—	21	21	—	—	—	—	
	特別支援学校高等部専攻科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	計	4,536	2,460	2,076	3,135	1,576	1,559	1,401	884	517	
B 専修学校(専門課程)進学者		1,387	576	811	987	380	607	400	196	204	
C 専修学校(一般課程)等入学者		394	224	170	350	189	161	44	35	9	
D 公共職業能力開発施設等入学者		68	51	17	67	50	17	1	1	—	
E 就職者等	自営業主等(a)	10	4	6	9	3	6	1	1	—	
	常用労働者	無期雇用労働者(b)	1,108	723	385	970	642	328	138	81	57
		有期雇用労働者	26	16	10	25	16	9	1	—	1
	臨時労働者	23	12	11	16	9	7	7	3	4	
上記以外の者		173	106	67	82	50	32	91	56	35	
不詳・死亡の者		2	1	1	2	1	1	—	—	—	
計		7,727	4,173	3,554	5,643	2,916	2,727	2,084	1,257	827	
再 掲	上記A,B,C,Dのうち就職してるもの(c)	1	—	1	—	—	—	1	—	1	
	E有期雇用労働者のうち雇用契約期間が一年以上、かつフルタイム勤務相当の者(d)	6	6	—	6	6	—	—	—	—	
	就職者(a+b+c+d)	1,125	733	392	985	651	334	140	82	58	

高等学校(全日制・定時制)卒業後の状況調査
281 状況別卒業生数(3-1)

Table with multiple columns: 区分, 計, 大学等進学者(A), 専修学校(専門課程)進学者(B), 専修学校(短期課程)修入者(C), 公中職業能力開発施設等入学者(D), 就職者等(E), 左記以外の者, 不詳・死亡の者, 左記A, B, C, Dのうち就職している者, 左記Bのうち雇用契約期間が一年以上以上かつフルタイム勤務相当の者(再掲), 左記Bのうち雇用契約期間が一年以上以上かつフルタイム勤務相当の者, 大学等進学率, 専修学校(専門課程)進学率(%), 就職者(再掲) (a, b, c, d), 卒業後占める就職者の割合(%)

1. 「計」は、「専修学校(専門課程)進学者(B)」と「専修学校(短期課程)修入者(C)」と「公中職業能力開発施設等入学者(D)」と「就職者等(E)」の合計である。
2. 「大学等進学者(A)」は、「専修学校(短期課程)修入者(C)」と「公中職業能力開発施設等入学者(D)」と「就職者等(E)」の合計である。
3. 「左記以外の者」は、「専修学校(短期課程)修入者(C)」と「公中職業能力開発施設等入学者(D)」と「就職者等(E)」の合計である。
4. 「専修学校(短期課程)修入者(C)」は、「専修学校(短期課程)修入者(C)」と「公中職業能力開発施設等入学者(D)」と「就職者等(E)」の合計である。
5. 「卒業後占める就職者の割合(%)」は、「就職者(再掲) (d)」と「左記Bのうち雇用契約期間が一年以上以上かつフルタイム勤務相当の者(再掲)」の占める比率をいう。

地域枠に関する山梨県と山梨大学との打ち合わせ要旨

日 時 令和 4 年 1 月 6 日（木）16:00～16:48
場 所 山梨大学医学部長室
出席者 （山梨県医務課）齋藤課長、高山課長補佐、穂坂主事
（山梨大学）平田医学部長、山縣医学科長、鈴木医学部教育委員会委員長、
今井学務課長、梶原参事

【打合せ内容】

(1) 山梨大学医学部医学科の地域枠定員について

山梨大学から、2024 年からの施行が予定されている医師の働き方改革を遵守するためには医師数の増加は必要不可欠であり、地域医療を支えていくためには大学病院と県内病院の両方の医師数を増やす必要があることから、令和 4 年度入学者までとなっている臨時定員増 20 名が廃止された場合でも、当面は地域枠定員 35 名の維持は欠かせないと考えている旨、発言があった。

これに対し山梨県から、10 万人当たりの医師数が全国平均を下回っている現状では地域枠定員の維持は山梨県にとっても不可欠であり、今後も地域枠定員分の医師修学資金の確保で支援をしていきたい旨、発言があった。

また、山梨大学から、医師の確保と並行して、地域枠学生が離脱しないための魅力ある就業環境の整備について、併せて要望があった。

なお、国の方針内容等により、必要に応じ改めて協議することとした。

(2) 地域枠入学者が再入学した場合の対応について

山梨大学から、地域枠入学者がやむを得ない理由で退学し、その後再入学した場合は地域枠入学者としての義務は継続する旨規則を改正したが、退学時に全額返金した医師修学資金の貸与を改めて受けることは可能かとの照会があった。

これに対し山梨県から、再入学の場合でも山梨県内病院で就業する意思がある学生であれば、地域枠の新入学生と同様に貸与する旨、回答があった。

また、仮に 2 年次以上の学年に再入学した場合でも、1 年時に遡って医師修学資金を貸与することも検討したい旨、併せて発言があった。

(3) 令和 3 年 12 月 20 日付け「医学部地域枠、学生へムチ「違約金」最大 842 万円 人権侵害の声も（朝日新聞デジタル）」について

標記の件については、事前に山梨県と山梨大学医学部に照会があったが、あくまで医学生で作る「全日本医学生自治会連合会」の声を鵜呑みにした記事であり、事

実無根であることから、地域枠入学者への対応については従来の方針を維持し、一切変更しないことを確認した。

(4) その他

上記のほか、地域枠制度、医師の県内定着、医師修学資金制度、医療政策など、幅広く意見交換を行った。